

五個荘見学と講演会



■日 時 :平成21年6月27日(土)
■参加人数 :25名

能登川駅よりバスで、ようこそんびんの里との案内の東近江農村環境改善センターで集合。TDA北川さんの案内で蔵の残る趣のある町並みを、説明を受けながら鯉の泳ぐ水路、舟板を使ってある美しい堀の路地を通り、近江商人屋敷めぐりのはじめは金堂と書かれた昔の消防ポンプが玄関におかれた藤井 彦四郎 邸へ、昔懐かしいおくどさんや五右衛門風呂、豆炭こたつなど、そして何より参加者の目を引き、盛り上がったのは壁に貼ってあった『妻 女 心得條』。男の方には妻に見せたい文面が、みんなカメラや携帯でしっかりと写しておられました。外村 繁 邸 の美しいお庭とちょっと変わった守腰狸、昔の商人の必需品 五つ玉そろばんや印籠も展示されていました。中江 順五郎 邸では、滋賀県伝統工芸品の小幡人形の数々、なんとここの人形は二重まふたとか。飾ってあったひな人形の着物も北川織物の麻と言うことで気品のあるスタイルでした。

外村 宇兵衛 邸では「近江の麻のれん展」伝承と発展の会場、ライフスタイル展の近江の麻も展示され、屋敷にとってもよくマッチしていました。ここからが本題の講演なのですがもっとじっくり見たい町並みや屋敷でした。

福本館長さんより 司馬遼太郎さんの街道を行くでも紹介された近江商人屋敷内での話し。近江商人は近江以外で働いている人が近江商人という、そして先祖からの預かりものを守り継承すると言う考え、儲けたお金は社会に還元する、そして日本の業界を支えていると言う自信と郷土愛が感じられました。

最後に坂東さんから「布の力」暖簾考の講演。落語家の様な着物姿での話し。映像ありの暖簾の歴史や種類、色によって 紺は呉服屋、白は菓子・薬商など、柄の面白さでは、二十丸の暖簾の太陽と月を表したものの、昼も夜も働けと言う意味があることなど興味深い話ばかり、TDAとしてメッセージ性のある、何百年変化しないテキスタイルをと言う締め言葉とシンボリックな映像を最後に、屋敷の人の雨戸を閉められる音と共にお開きになりました。

その後、郷土料理のお店(樂ころうえもん)で初参加の人も懐かしい人も布の力と言うことに改めて考えるきっかけになったとの嬉しい言葉も聞かれ、郷土料理の泥がめ汁にもみんな満足しました。とても有意義な1日になり布の力を信じながら仕事していきたいと思います。ありがとうございました。(岩岡 利都子)

布の力・暖簾考

滋賀県東近江市五個荘 外村宇兵衛邸での勉強会にて



大阪市 雑貨店 新しい形の暖簾

日本独自に発達した暖簾は「結界の美」と言われる。ルーツは縄文時代に風を避けるために出入りに掛けた庭(むしろ)だともいわれる暖簾。形は源氏物語絵巻に多く描かれ今も神社などで見られる几帳や幌(とばり)が原型とされ既に平安時代には民家の戸口に掛けていたらしい。信貴山縁起絵巻(1180年頃には)絞り染らしい半暖簾も描かれている。暖簾という名称は室町中期の文献(節用集など)に出てくるが禅寺では簾の事を涼簾、寒期には簾に布を張って暖簾(中国・元から伝わり、ナンレン・ノンレン・ノウレン・のれんと発音が変化)と呼んでいた。江戸時代に入るまでは麻の生産が一般的だったので、苧麻(からむし)の垂れ布の意から、既に生活に定着していた布製のそれを「垂れ蒸し」と呼んでいたが、次第に暖簾(のれん)となる。

鎌倉期の武士の台頭とともに旗印などが発達し、同時に商家でも紋、商標を染め抜いた暖簾が現れ室町時代には多用されるようになる。そして江戸の寺子屋による識字率の向上に伴い文字が描かれた暖簾が出てくる。日本橋の呉服商、越後屋三井八郎右衛門が「現金安売掛値なし」と大きな商標とともに染め抜き、周囲が皆真似をしたことから益々生活具としての暖簾としてだけでなく、しだいに商いのシンボルとして老舗性や信用性の象徴として活躍する事になる。

古来から見られる暖簾の種類は多いが、標準の大きさは丈が脇尺で3尺・約113cm、横幅は三幅で約105cmであり数百年の間ほぼ変わっていない。長暖簾は丈が約160cmで呉服商などが多く、日除けと共に客も落ち着いて品選びが出来る。半暖簾は丈が約40cmで作業や品揃えを見やすくしている。軒下に間口一杯に昼夜掛けっぱなしにする水引暖簾や1枚もので框に重りをつける太鼓暖簾、家の中で使う潜り暖簾、床暖簾、髪結いには派手な絵柄の絵暖簾、歴史は古く勝手口や通路にも多用された縄暖簾、畳屑に送る花暖簾、ガラスや木の珠を連ねた珠暖簾など多様である。金沢を中心に嫁入り時に持参する花嫁暖簾は豪華にめでたい図柄が友禅などで染められ、現在は七尾地方で町おこしとして5月に展示されている。そのほかに丸竹や木の丸太を連ねたものもある。かつては色による商いの区別もあった。藍、紺は呉服商、白地は菓子・薬商、柿色は格の高い太夫の居る店だけに。浅葱はもっぱら遊所で、紫は禁色。但し現代は職業に関係無く、赤、黄、紫と多様である。